

令和8年熊本地震被災地支援（発災後1か月） 総括

被災地の状況

- 発災から1か月が経過し、氷川町は日常生活の回復が進んでいる状況
 - ・コンビニを始めとする店舗の営業再開
 - ・生活インフラの復旧……………8/28 断水解除 ※【参考】地震発生時断水 3,231戸
 - ・小中学校2学期再開……………9/ 1 避難所の拠点化による教室スペース確保
 - ・避難所運営を民間委託……………9/ 2 委託開始
 - ・仮設住宅入居開始…………… 9/ 5～
 - ・家屋被害認定調査（1次調査）…9月中旬 終了予定
 - ・熊本県災害対策本部は、復旧・復興本部へ移行（9/1）



被災地は、日常生活の回復が進み、応急対応から復旧・復興へ移行

佐賀県の支援

- 発災直後から人的支援、物資支援を実施
- 全20市町職員が応援職員を派遣
 - ・氷川町への支援延べ人数1,622名（県981名、市町641名）
- 対口支援総括として現地調整を担い、CSOとの連携によるきめ細やかな支援体制を構築
 - ・CSO20団体以上が支援
- トイレカー、シャワーテント等支援資機材は、運営体制と人材を一体で確保

支援活動で得られた教訓・課題

- 災害現場には調整権限を持つ幹部職員を派遣
 - 行政・CSO・社協による平時からの顔の見える関係づくり
 - 支援資機材は「人付き」で運用
 - 派遣職員や車両の所属表示
- （被災地支援チームで取りまとめ予定）